

平成28年度 全国学力学習状況調査のまとめ

富士吉田市教育委員会

本年度実施された全国学力学習状況調査の結果をまとめましたので、本市の児童生徒の学習・生活状況の概要についてお知らせします。今回の分析結果を踏まえ、今後の教育施策に反映するとともに、各小中学校においては、指導内容や指導方法を含めた学習環境の改善を進めてまいります。

■実施日時：平成28年4月19日（火）

■対象：小学校6年生 中学校3年生

■参加者数：小学校7校 児童数459名 中学校4校 生徒数457名 合計 916名

1 教科に関する調査の結果（評価）

| | 国 語 | | 算数・数学 | |
|-----|----------|----------|----------|----------|
| | A（知識） | B（活用） | A（知識） | B（活用） |
| 小6年 | 全国・県ほぼ同等 | 全国・県ほぼ同等 | 全国・県ほぼ同等 | 全国・県ほぼ同等 |
| 中3年 | 全国・県ほぼ同等 | 全国・県ほぼ同等 | 全国・県ほぼ同等 | 全国・県ほぼ同等 |

* A問題（知識）＝身に付けておかなければ後の学年の学習内容などに影響を及ぼす内容

* B問題（活用）＝知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容

■結果：国語、算数・数学とも、全国平均・県平均と比べて、±5%の範囲にあり、ほぼ同等でした。

2 各教科の状況について（特徴の大きい内容）

【小学校】 ○=よくできている内容 ●=課題がある内容

| | | 設 問 |
|--------|---|--|
| 国 語 | A | ○話し合いを行うために、目的や意図に応じて収集した情報を関係付けることができる ●漢字を読むこと・書くことに課題がある |
| | B | ○目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書くことができる ●目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題がある |
| 算 数 | A | ○末尾の位のそろっていない小数の加法の計算をすることができる ●1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解することに課題がある |
| | B | ○正方形に内接する円の半径について理解している ●示された式に数値を当てはめて、目標のタイムを求めることに課題がある |

【中学校】

| | | |
|----|---|---|
| 国語 | A | ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができる ●話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較することに課題がある ●漢字を書くことに課題がある |
| | B | ○文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことができる ●本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある |
| 数学 | A | ○具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくることができる ●自然数の意味を理解することに課題がある |
| | B | ○与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することができる ●付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することに課題がある |

■主な傾向

- ・小学校は基礎基本の定着も見られますが、漢字の読み書きや計算問題などの反復練習や、読書の習慣、長文を書く力などの習得が必要です。
- ・中学校は漢字の読み書きや計算問題などの基礎基本の習得が必要です。特に数学の苦手な分野は小学校の復習による基礎力の見直しも必要です。
- ・県や全国と同様に、A問題（知識）よりもB問題（活用）の平均正答率が低い傾向が見られます。

3 生活習慣や学習環境等の状況について

「児童・生徒質問紙」の回答から全国の子どもたちの平均値と比較し、特徴的なものを挙げました。

(○＝全国平均よりよい内容 ●＝課題がある内容)

【小学校】

| | 特徴的な内容 |
|------|---|
| 学習活動 | ○自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると考えている児童の割合が多い ○学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級の決まりなどを決めていると思っっている児童の割合が多い ●400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思っっている児童の割合が多い ●土日に、家で1時間以上勉強をしている児童の割合が少ない(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む) |
| 生活習慣 | ○朝食を毎日食べている児童の割合が多い ○学校に行くのは楽しいと思っっている児童の割合が多い ●家で読書をしたり新聞を読む児童の割合が少ない ●住んでいる地域の行事に参加している児童の割合が少ない |
| 規範意識 | ○人が困っているときは、進んで助けようとする児童の割合が多い ○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っっている児童の割合が多い |

【中学校】

| | 特徴的な内容 |
|------|---|
| 学習活動 | <ul style="list-style-type: none"> ○1, 2年の時の授業で、生徒同士で話し合う活動をよく行っていたと思っている生徒の割合が多い ○学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあると思っている生徒の割合が多い ●自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う生徒の割合が多い ●平日、家で1時間以上勉強をしている生徒の割合が少ない（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む） ●家で、授業の予習や復習をする生徒の割合が少ない |
| 生活習慣 | <ul style="list-style-type: none"> ○朝食を毎日食べている生徒の割合が多い ○家の手伝いをよくする生徒の割合が多い ●新聞を読んでいる生徒の割合が少ない ●住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合が少ない |
| 規範意識 | <ul style="list-style-type: none"> ○人が困っているときは、進んで助けようとする生徒の割合が多い ○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う生徒の割合が多い |

■主な傾向（小6・中3共通）

- ・生活習慣の定着や規範意識が高い子供たちが多く、落ち着いて生活している様子が伺えます。
- ・自主的な家庭学習に取り組む時間が短くあまり定着していない様子が見られます。
- ・地域の行事に参加することや新聞を読むことなど、社会性を身に付ける経験が少ない傾向が見られます。

3 今後の対応

調査結果から明らかになった児童生徒の学習や生活の状況を踏まえ、状況の改善や学力向上に向けて、次の項目に重点を置いて取り組みます。

- 基礎基本の習得を中心とした学力向上を図るために、授業改善や補習学習会などを推進します。
- デジタル教材を活用して、主体的に学習に取り組む姿勢と家庭学習の習慣化を推進します。
- 小学校と中学校の連携を強化して合同研究会や交流授業などを推進し、継続した学習環境を整備します。
- 教育相談に関する体制を充実させ、児童生徒が落ち着いて学校生活を送れるような環境づくりを推進します。